

——— 人類史上最も大きな 3 つの事件 ———

ある歴史学者は次の様に言いました。人類史上で最も大きな事件を 3 つ挙げるとしたら、

- ・ 1 番目、神が人間としてこの世に来られたこと。すなわちイエス・キリストの誕生です。
- ・ 2 番目、その神が死なれたこと。これは人間の死ではなく神の死です。
- ・ 3 番目、その死んだ神がよみがえられたこと。イエス様の復活、イースターです。

彼は**イエスの誕生**と、**イエスの死**と、**イエスの復活**を人類史上最大の事件だと言ったのです。今日は、3 番目の、「死んだ神がよみがえられたこと」から、お話します。

——— 死んだ神がよみがえられた ———

『イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます。』 (28：7)

イエス様の生涯は死で終わりませんでした。エルサレムの、イエスの墓と伝えられている所には、立派な教会が建てられています。その教会はホーリー・セパルカー、「聖なる墓」と呼ばれています。日本語では聖墳墓教会と呼んでいます。しかし、ギリシャ正教会では、この教会を「アスタシア」つまり、ギリシャ語で「復活」と呼んでいます。

同じ教会を一方では「墓」と呼び、他方では「復活」と呼んでいるのは興味深いですね。

私たちクリスチャンのお墓も同じです。亡くなった方が葬られるお墓が、同時に復活の場所となるのです。

この事実は、イエス様の十字架の死と復活とが切り離すことが出来ないという事を教えています。

イエス様の生涯は、決して死で終わりませんでした。イエス様の墓は、死の場所であると同時に、復活の場所ともなりました。

そして、イエス様の復活が初代教会を生み出す、大きな力となったのです。

では、復活の朝の出来事を、聖書を通して見て行きましょう。

イエス様は、現代の暦で言えば、金曜日の午後 3 時に十字架上で息を引き取り、その日の日没までに埋葬されました。ユダヤの暦によりますと、その 1 日は、日没から始まります。

つまり安息日は、金曜日の日没から始まり、土曜日の日没で終わります。

では、順を追って確認しましょう。

(28:1～9) ——— イースターの朝の出来事 ———

(1 節)「さて、安息日が終わって週の初めの日の明け方、マグダラのマリアともう一人のマリアが墓を見に行った。」

安息日が終わると、新しい一週間の第一日、すなわち現代の日曜日が始まります。その日曜日の早朝、二人のマリアが、イエス様のお墓を見に行きました。イエス様の死体に、香料を塗るためでした。（実は彼女たちは、イエス様が死んで葬られた時、その墓の前を去る事が出来ずにいました。しかし日没とともに安息日が始まったので、その時はやむを得ず一旦は家に帰ったのでした。）

もちろんこの時、彼女たちは日曜日にイエス様が復活することになるなど夢にも考えていませんでした。ですから、安息日が終わった時、いの一番にイエス様に会いに行ったのです。その目的は、イエス様の体に香料を塗る事でした。ところが、墓に着いてみると、なんと死体はありませんでした。

途方に暮れていると、御使いが現れました。

(2～4)「すると見よ、大きな地震が起こった。主の使いが天から降りて来て石をわきに転がし、その上に座ったからである。その姿は稲妻のようで、衣は雪のように白かった。その恐ろしさに番兵たちは震え上がり、死人のようになった。」

(5～7)「御使いは女たちに言った。『あなたがたは、恐れることはありません。十字架につけられたイエスを探しているのは分かっています。ここにはおられません。前から言っておられたとおり、よみがえられたのです。さあ、納められていた場所を見なさい。そして、急いで行って弟子たちに伝えなさい。「イエスは死人の中からよみがえられました。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれます。そこでお会いできます」と。いいですか、私は確かにあなた方に伝えました。』」

御使いが現れて、イエス様が復活されたことを語りました。御使いは、彼女たちに次のように命じました。「ガリラヤに行けばお会いできます。更に、この事実を早く、他の弟子たちに知らせるように。・・・」

(8 節) 「イエス様は生きています！」そのことを知らされた「彼女たちは恐ろしくはあったが大いに喜んで、急いで墓から立ち去り、弟子たちに知らせようと走って行った。」

(9 節) ところがその途上で、復活されたイエス様は女性たちに現れました。

「すると見よ、イエスが『おはよう』と言って彼女たちの前に現れた。彼女たちは近寄ってその足を抱き、イエスを拝した。」女性たちは、復活したイエス様を拝みました。

この様に、女性たちが、イエス様の復活の第一の証人となったのです。

(10 節)「イエスは言われた『恐れることはありません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに行くように言いなさい。そこでわたしに会えます。』」

イエス様の死によって、悲しみ、失望していた弟子たちは今、イエス様がよみがえられたことを聞いて非常に喜び、もう一度、力を取り戻すことが出来ました。この様に、イースターの朝の出来事、イエス様の復活は、私たちにとって十字架と共に欠くことの出来ない重要な要素なのです。

——— マリアが体験したこと ———

さて、マリアは復活されたイエス様に、最初に会った女性でしたが、ではマリアは目の前のイエス様が復活された主だと、どうしてわかったのでしょうか？

マグダラのマリアの体験から学びましょう。彼女の体験は、あらゆる感覚を用いて確かめられた、真実の体験でした。

・第1、彼女は天使のことばを自分の耳で聞きました。

・第2、彼女は天使の姿を自分の目で見ました。

(兵士が恐れおののいて、卒倒したほどに栄光に輝く天使の姿を見ました)

・第3、彼女はからの墓を自分の目で見ました。

・第4、彼女は復活された主イエス様と直接お会いしました。

・第5、彼女は復活された主イエス様の声を聞きました。

・第6、彼女は復活された主イエス様の御足を抱いて礼拝しました。

以上、聴覚、視覚、触覚——人間のあらゆる直線的な感覚を通して、イエス様が現実にごそこにおられることを確認しました。

そうです！ 確かに、主はよみがえられました。

実は、イエス様の復活の目撃者は、このマリア達だけではありません。

(第一コリント 15:3～8)「・・・キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、また、ケファに現れ、それから十二弟子に現れたことです。その後(のち)、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中にはすでに眠った人も何人かいますが、大多数は今なお生き残っています。その後、キリストはヤコブに現れ、それからすべての使徒たちに現れました。そして最後に、月足らずで生まれた者のような私にも現れてくださいました。」

——— イエス様の復活の3つ大切な意味 ———

・第1、イエス様の復活は、**イエス様が神であった**ことを示しています。

イエス様は何度も、ご自分がよみがえられることを予告していました。その予告は事実となりました。

(ローマ 1:3、4)「・・・御子は、肉によればダビデの子孫から、聖なる霊によれば、死者の中から復活により、力ある神の子として公に示された方、私たちの主イエス・キリストです。」

世の人々は、世界の四大聖人として、釈迦、孔子、ソクラテスそして、イエスの名をあげます。しかし、釈迦も孔子もソクラテスも死にましたが、復活しませんでした。確かに、彼らは聖人と仰がれる偉大な人物であったかも知れませんが、神ではありませんでした。ただ、

イエス様だけが、死者の中から復活し、神の子であることを公に宣言したのでした。

・第2、イエス様の復活は、**人々のいのちの始まりの証明**となりました。

アダムの罪によって、死が全人類に入り、人類を支配しました。しかし、キリストの復活によって、いのちが世界に入り、世界を支配するようになりました。

(第一ペテロ 1:3)「・・・神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちに新しく生まれさせ、生ける望みを持たせてくださいました。」

・第3、イエス様の復活は、**信じる者の肉体の復活の保障**となっています。

イエス様は死者の初穂として、よみがえったのであり、イエス様を信ずる者は、死んでもよみがされます。

私たちはやがて死ななければなりません。しかし、イエス様を信ずる者にとって、死が最後ではありません。やがて、イエス様が再臨する時によみがえらせ、イエス様と共に永遠に生きることが出来るのです。

(第2コリント 4:14)「主イエスをよみがえらせた方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、あなたがたと一緒に御前に立たせてくださることを知っているからです。」

(第一コリント 6:14)「神は主をよみがえらせましたが、その御力によって私たちも、よみがえらせてくださいます。」

今年のイースター

イースターの事実が、私の事実となるように、

イースターの真実が、私の真実となっていることに感謝しましょう！

そして、今朝、復活されたイエス様は、私たちに対しても「おはよう！ 喜びなさい」と、呼びかけて下さっているのです。

——— サッカー少年とお父さん ———

教会学校に行っている、サッカーが大好きな少年がいました。彼はいつも、試合に出て活躍をしていました。

彼のお父さんは目が見えません。でも、いつも応援に来てくれました。

ところがそんな、お父さんがある時突然、亡くなりました。

みんな彼のことを配慮して「試合を休んでもいいんだよ」と勧めました。ところが、彼は試合に出てきました。そしてその日、彼は素晴らしく活躍して、チームを勝利へと導きました。みな、そのわけを聞きました。「今日は、すごかったね」少年は言いました。「今まで、お父さんは目が見えなかったから、僕の試合を見る事が出来なかったけれど、今日は、初めて僕の試合を見てくれたんだ。だからさ！」サッカー少年に復活信仰がありました。